

# 2019年度 友の会活動のまとめ

(1号議案)

2019年7月の参議院選挙は、「立憲野党」が安倍改憲発議阻止のために必要な3分の1超の議席を確保し、改憲策動ストップの審判が下りました。平和の集いはこの成果を確認し、地域の方々と憲法を守っていく場となりました。三郷九条の会などと企画した椋大樹弁護士を迎えての憲法学習講演会は新型コロナ危機のため中止しました。

緊急事態のなか三郷市管轄の保健所が草加市に統合されてきた脆弱な体制や医療崩壊の瀬戸際が問題になり、社会保障切り捨てや自己責任押しつけの政治、アメリカからの戦闘機爆買、イージスアショアや沖縄辺野古基地建設などの無駄遣いが明らかとなりました。

消費税増税に加えてのコロナ危機は、格差と貧困を増々広げ、社会保障の充実が求められています。私たちがこの間取り組んできた「国民負担増をストップし、国の責任で社会保障制度の充実を求める請願」、「75歳以上医療費窓口負担2割化に反対する請願」署名などの活動がますます大切な意義と役割を持っていることを示すものです。

## 1、保健、医療、福祉を充実させる活動

- ・新型コロナウイルスによる緊急事態のもと、感染予防のための「大場文江先生からのお願い」、会員の「暮らしぶりや感想」、介護職員の献身的な働きぶりなどを機関紙「ふれあい」に掲載し、大きな反響があった。
- ・「ドクター大場のお金をかけない健康法」の講演、機関紙「ふれあい」への4回にわたる「私の健康法」の掲載、ウォーキング（6.9は20名、10.5は16名、1.19は19名、6.14は33名の参加）などを実施した。
- ・平和の集いでは相野谷泰孝・前社会保障推進協議会事務局長による「参院選の結果と平和、社会保障・消費税」の講演会を開催した。
- ・三郷市内の労働組合、婦人・業者団体、医療法人と友の会などが参加し、社会保障充実の活動を行っている三郷市社会保障推進協議会にアカシア会とともに加盟した
- ・国と東電が原発事故の賠償打ち切り、福島切り捨て政策を進める中、「今被爆地福島の本物の姿は」（放射能から子ども達を守る連絡会主催）の集いに7名が参加した。

## 2、平和を守る活動

- ・第十回の8・3平和の集い成功のため、友の会会員、ウクレレサークルなどが活躍した。
- ・椋（はんどう）大樹弁護士を招いての「護憲や改憲の前にまずは憲法を知ろう」講演会に協賛団体として参加していたがコロナ危機のため中止となった。
- ・友の会10周年事業として刊行した戦争体験集「私の戦争体験 70余年 秘めた想いこもごも」の普及活動は、新会員に配付することも含めて不十分だった。



大谷寺へのバスハイク



平和の集いので開会挨拶する大場先生（左端）



ウォーキング

## 3、交流を深め、仲間を増やす活動

- ・6・4大谷寺、10・19ひたち海浜公園へのバスハイクは、いずれも50名近い参加で実施でき、日頃外出の機会の少ない会員から喜ばれた。
- ・これまで最高の50余名が参加したクリスマス会は、WCラグビーボールレプリカを使ってのパス練習、手作りの輪投げを使っての大会、落語鑑賞、ウクレレサークルによる合唱、紙芝居など友の会員が主役の充実した催しとなった。
- ・20名を超えたウクレレサークルは、クリスマス会や平和の集いのオープニングなどに欠かせない存在となり、三郷市文化祭への出演や老人ホームへの慰問活動も行った。
- ・おしゃべりサロン（6、8、10、1月実施。以降お休み）は戦災孤児の本や平和紙芝居、童話などの紹介、情報交換や日常生活の話など元気のでる場所として定着している。

- ・11・13.パティオ講演会（聴覚障害）、12・7介護活動集会等アカシア会行事に参加した。
- ・9・7 協同組織交流会に役員2名が参加し、他地域の友の会の活動を学んだ。
- ・仲間増やし350名到達の目標は基本的に達成、「いつでも元気」普及も前進した。

#### 4、機関紙「ふれあい」と友の会活動

- ・編集委員会を定期的に開催、掲載記事のテーマ・内容を集団で協議し紙面の改善をはかった。特に、「読んでみよう」の連載は好評を博した。

## 2020年度 友の会活動の方針

(2号議案)

安倍首相は、任期中に自らの手で憲法9条を変える執念をもち続けています。解散・総選挙がいつ行われても不思議でない情勢のなか、参院に続き「立憲野党」を伸ばし、自民・公明・維新の会などの改憲派を3分の2未満に追いこみ改憲の企みをストップさせるため、三郷市内の平和団体や個人と力を合わせます。

「核兵器禁止条約」は、発効まであと一歩です。被ばくの実相を学び、語り広げ、「ヒバクシャ国際署名」を広げ、核兵器禁止の転機之年にしていくため運動を強めます。

政府の進める「全世代型社会保障制度」は世代間の対立をあおりながら高齢者を働かせて負担の担い手とし、年金受給開始年齢の70歳への引き上げなどの改悪を求めるものです。また後期高齢者の窓口負担割合の2割化、高すぎる国税の引上げを狙っています。コロナ危機のもと社会保障切り捨てや自己責任押しつけの政治の見直しこそ必要です。社会保障の財源は、消費税増税の財源で引き下げられてきた法人税を元に戻す、高額所得者ほど税率が低くなる税金の取り方の改革、不要な軍事費の削減をすれば可能です。医療・介護制度の充実のための学習会等の活動を進め、そのための署名などの運動を展開します。

### 1、保健、医療、福祉を充実させる活動

- ・三密を避けての健康教室の開催、ウォーキングの取り組みを特に充実させる
- ・地域の方と連携し、社会保障等の勉強会の開催、署名活動を推進する。
- ・東日本大震災・原発事故を風化させないための活動を引き続きおこなう。
- ・三郷市社会保障推進協議会と連携し、三郷市の社会保障の実態を学ぶとともに、充実のための活動に取り組む。



ひたち海浜公園への  
バスハイク



ウクレレサークル勢揃い



ウォーキング前の体操

### 2、平和を守る活動

- ・コロナ危機のために中止する「平和の集い」に代わって被爆・戦時下の写真展とともに、8・9 原水禁世界大会のオンライン配信の視聴会を開く。
- ・会の10周年に刊行した戦争体験集を新入会員に確実に届けるなど普及に努める。
- ・「ヒバクシャ国際署名」を意識的に広げる。
- ・安倍改憲NO！全国市民アクションの署名を推進し、諸団体との協力を強化する。

### 3、交流を深め、仲間を増やす活動

- ・コロナ危機下でもクリスマス会を開催できるよう努め、バスハイク実施も検討する。
- ・ウクレレサークル、おしゃべりサロンの継続を支援していく。
- ・仲間増やしは360名到達を目標とする。「いつでも元気」をさらに意識的に普及する。

### 4、友の会だより「ふれあい」と友の会活動

- ・編集委員会を定期開催し、会員の要望によりこたえられる紙面になる様にしていく。